

009

## 言語学

「女ことばの歴史」日本語には、なぜ、「女ことば」があるのか？

## 講座内容

鎌倉時代から第2次大戦までの日本語の歴史の中に、女性のことばを位置づけて、「女ことば」の歴史をたどります。初心者の方にも楽しく参加していただけるよう、分かりやすく進めていきます。どうぞ、お気軽にご参加ください。

|     |                                                             |     |                |
|-----|-------------------------------------------------------------|-----|----------------|
| 期 間 | 11月7日～12月5日                                                 | 受講料 | 10,000円        |
| 曜 日 | 金曜日                                                         | 定 員 | 30名 ※最少催行人数10名 |
| 時 間 | 10:00～12:00                                                 | 会 場 | 横浜・関内キャンパス     |
| 回 数 | 全5回                                                         | 持ち物 | 筆記用具           |
| 教 材 | 『女ことばと日本語』出版社:岩波新書 著者:中村桃子 定価:800円(+税)<br>各回、講師が配布資料を用意します。 |     |                |
| 備 考 | ●この講座は10月30日(木)までに中止の連絡が無ければ開催となります。                        |     |                |

## 講座スケジュール

| 回数 | 日 程        | 内 容                                                                       |
|----|------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 11月 7日 (金) | 「女ことば」とは、女性が使ってきた言葉づかいではない<br>「女ことば」を、抽象的な概念とみなす、新しい枠組みを紹介します。            |
| 2  | 11月14日 (金) | 言葉づかいの規範としての「女ことば」<br>女らしい話し方の規範は、鎌倉時代からはじまり、現代のマナー本まで続いています。             |
| 3  | 11月21日 (金) | 男性のための「国語」と女性のことば<br>明治時代には「国家—国民—国語」の結び付きによって近代国家を成立させるために、「国語」がつくられます。  |
| 4  | 11月28日 (金) | 明治時代的女子学生が話し始めた「女学生ことば」<br>「女ことば」の源流は、女子学生の「てよ・だわ言葉」に見られます。当時は厳しく批判されました。 |
| 5  | 12月 5日 (金) | 第2次大戦中に、「女ことば」を賞賛する、まとめ<br>女ことばが「国語」に格上げされたのは、日本語による植民地支配を正当化するためでした。     |

## 講師紹介



## 中村 桃子(なかむら ももこ)

本学名誉教授

博士(人文科学)。「ことばが変われば社会が変わる」「自分らしさ」と日本語(ちくまプリマー新書)、『新敬語「マジヤバイっす」—社会言語学の視点から』『翻訳がつくる日本語—ヒロインは女ことばを話し続ける』(白澤社)、『女ことば』はつくられる』(ひつじ書房、第27回山川菊栄賞受賞)他多数。